

## 令和3年度 第1回総合教育会議 議事録

### 1 日時

令和3年11月4日(木) 午後1時30分から午後3時00分まで

### 2 場所

市川市役所第1庁舎5階 第4委員会室

### 3 出席者

村越祐民市長、田中庸恵教育長、平田史郎教育委員、島田由紀子教育委員、  
山元幸恵教育委員、広瀬由紀教育委員、関係職員(17名)  
※大高究教育委員は欠席

### 4 議題

- (1) 子どもに合わせた学びについて
- (2) 家庭、学校、地域の連携について

### 5 議事概要

#### ○市長

ただいまから、令和3年度第1回市川市総合教育会議を始めさせていただきます。本日はお手元の次第にありますとおり、議題が二つございます。第1に「子どもに合わせた学びについて」、第2に「家庭、学校、地域の連携について」ということを議題として、教育委員会の皆様と協議をさせていただきたいと思っております。

なお、大高委員につきましては、所用により急きよ、ご欠席とのことですので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、「市川市総合教育会議の運営に関する要綱」第6の4に基づき、本日の会議の公開・非公開の決定を行いたいと思っております。議題につきましては、非公開事由に該当するものではないと思われまますので、会議を公開することにしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

————— 異議なし —————

異議がないようですので、公開ということでお願いをしたいと思います。  
報道関係者の方はおられるでしょうか。

————— 報道関係者 0名 —————

○市長

傍聴の方はおられるでしょうか。

————— 傍聴者 2名 —————

○市長

それでは、傍聴の方を通していただきたいと思います。

#### ■議題1 子どもに合わせた学びについて

○市長

それでは、傍聴人の方二名が席につかれましたので、早速、議題の1「子どもに合わせた学びについて」の協議に入りたいと思います。本議題を提案させていただく背景ですが、本市ではGIGA スクール構想を大いに推進しておりまして、今後は一層、一人ひとりの理解度に合わせた指導が可能になると考えています。

また近年、発達に課題のある子どもや日本語支援が必要な子ども、医療的配慮が必要な子どもも増えておりまして、学びのニーズが多様化しております。本市では引き続き GIGA スクール構想等の取組を推進し、子どもに合わせた学びを実現していく所存であります。他にどのような取組が今後必要となるか、教育委員の皆様からご意見を拝聴したいと思います。よろしく願いいたします。まず、教育長に口火を切っていただいてもよろしいでしょうか。

○教育長

それでは私の方からお話をさせていただきたいと思います。

まず一つは、外国籍の児童生徒への対応ということを考えました。現在、教育委員会で「翻訳機」が8台ございまして、「ワールドクラス」を保有する小中学校等に配付されております。使ってみての具合を聞いてみますと、大変活用が図られているということでした。他の学校におきましても、ぜひ欲しいとの要望もありますので、これから順次、台数を増やしていければと考えているところでございます。

それと並行して、通訳の派遣も推進しておりますので、翻訳機と、実際の通訳の方をハイブリッドで進めていければと考えております。ドイツ派遣も市川市は行っておりますので、そういう意味では、これらを活用することが、国際理解教育や国際交流にも役立つものと思います。

それから、今後はもちろんICTも重要なのですが、子どもの多様なニーズを考えますと、人材発掘と授業改善がやはり大事だと思っております。まず始めの人材発掘というのは、多様なニーズに先生方が応えるということですので、もちろん教職員の資質能力を伸ばすということもありますが、例えば、授業の達人を市川市でも育てますが、人事異動で管内5市の交流がある中で、市川がこういう取組をやっているのです、ぜひ市川市でこういう教科、こういう内容を自分は教えたいという外部からの達人も、交流を通して受け入れられればと思っております。

それから、ICTと絡む関係でお話させていただきますと、ICTを子どもたちが使いこなせるようになることが大事なわけでありまして、学校訪問に行くと子どもに聞きますと、わからないときに、そばに聞ける人がいると大変ありがたい嬉しいという意見がありました。現在、支援員が6名おり、各学校に大体1週間ないし2週間に1回ぐらいのペースで行きますが、それですと時間的にも子どものニーズに十分に答えられていない状況です。そこで、私見になりますが、市内に大学が複数校あり、大学生は年齢も近いということもありますので、その大学生にお声をかけて、いわゆるICTの支援員の補助の役割をして、学校に入り込んでいただくということも想定できるのではないかと、今後模索できればと思っているところであります。

主だったものは以上でございます。よろしくお願いいたします。

## ○市長

ありがとうございます。教育長におかれましては、市長部局との連携を一層、昨年度以上に深めていただいて、大きな予算がかかるこの GIGA スクール構想を準備万端で進めていただき、深く感謝を申し上げているところであります。

他市の GIGA スクール構想の進捗というものを、私もつぶさに見ているつもりですけれども、やはりどうしてもタブレットをまず決められた期間内に配布し切るといふ、GIGA スクールのための GIGA スクールのようになっている事例がたくさんあると承知しています。早くタブレットを配ったはいいものの、あまり有効に活用できていない。例えばコロナ禍で入場制限をする中で運動会の配信をしましたとか、あるいは、家に持って帰って家庭学習に役に立ててくださいと言いながら、実際は子どもたちはそれで「YouTube」で動画を見ているだけとか、そういう話がたくさん聞こえてきております。

今教育長がお話しになった子どもの多様化に対応するために、新しい機材を役に立てるといふことと、それから本市では将来的に、教育機材・タブレットを使って子どもたちに配信する際に、線が細くて配信が遅れたりすることがないように、非常に太い回線の導入を進めている

ということもあって、他市にない準備に余分に時間を取らせていただきましたけれども、他市とは一味も二味も違ったこの GIGA スクール構想の準備が進んでいると、大変ありがたく思っております。

何としても子どものニーズに合わせた、きめの細かい、そして質の高い市川の教育の実現のために、一層また様々なご相談をさせていただきながら、しっかり GIGA スクールというものを意味のあるものにしていかなければいけないと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

では、順に広瀬委員、何かございましたらご意見を賜りたいと思います。

## ○広瀬委員

今回初めて参加させていただきますので、色々、場にそぐわないようなことも申し上げるかもしれませんが、ご容赦いただければと思っております。

子どもに合わせた学びということについて、今、特別支援教育ではインクルーシブ教育システムの構築に向けて、国でも推進をしているところで、連続性のある多様な学びの場の整備ということも言われています。市川市は市内に特別支援学校もございますし、支援学級やだんだん増えている学校内の通級の教室もございます。

その中で私は、多様な学びの場というのが、子どもたちを分ける場であってはいけないということを強く思っております。インクルーシブ教育システムは、同じ場で共に学ぶことを追求するということが、まず前提にあると言われておりますので、そうした中で、先ほども教育長から、通常級の先生も含めた授業改善の話も出ていましたけれども、通常の学級、幼稚園の中などで、多様なお子さんを受け入れる先生方の意識や、授業内容など、そういったところの中で、ICTも含めて活用できる教員側の技術等も必要ではないかと思っていますのでございます。

多様なお子さんたちが、通常の学級、あとは地域の学校に行くために、今まで以上に研修の充実を図ることが必要であると個人としては思っております。

先ほど出てきた通級の指導に関しては、私の息子が通っている学校も通級の教室がありますが、他の学校の通級が必要なお子さんたちも、うちの子が通っている学校へ、特定の時間に親御さんが通わせるシステムで行われています。保護者の立ち位置からすると、例えば仕事を中断して、その学校へ送迎に行くというのはかなり負担が大きいです。わが子に障がいがあるからといって全ての責任を親が負うというのも、中々大変なところがあるのではないかと感じております。例えば東京の西の方の市で、通級の先生がA校、B校、C校の3校を担当し、基本校のA校は週に3日、残りのB校とC校には週1日行くというようなことで、B校、C校のお子さんは週1日、自分の学校の中で通級の先生に指導を受けるというような形でやっておられるところもあると聞いたことがございます。

そうなる保護者の立ち位置からすると、自分の学校の中で教室内の移動だけで、自分の子どもに合った教育が受けられるというのは、非常に心強いと感じるところがございまして、そのためには色々な人的なものや場所なども必要になってくるかと思いますが、そういったやり方も、もし可能であれば、ご検討の一つに挙げていただけるとすごく嬉しいと考えました。

学びのニーズが多様化していて、子どもに合わせた学びというところで、特に私は特別支援教育と幼児教育の真ん中辺りで、いつも勉強させていただいていますが、幼児教育のところでは、今までの子どもに何を教えるかというところから、子どもが何を学んでいくかというところに、視点がシフトしているということを感じております。

そうした中で、子どもの学びをICT等を活用して可視化すること、それを保護者ですとか地域に発信していくことが、非常に重要だと感じております。結局プロセスが見えないと、保護者をはじめ、どうしても「何かができた」、「何かができない」というところでの議論に終始しがちになってしまいます。自分の子どもは例えば駆けっこが速かったからよかったとか、作品が上手く書けなくて残念だといった結果論に陥りやすくなるかと思いますが、プロセスがその学校や保育現場から発信されると、今、苦戦しながらも頑張っているとか、色々な友達と繋がり合いながら、こういうふうに取り組んでいるというところが見えるというのは、非常にこれからの教育を考える上ですごく大事であると思っています。

写真を撮って、保護者に今こういうところで頑張っていますということを発信するといった部分で活用しているところもあると聞いていますので、そういったところも、ぜひご検討いただけると嬉しく思います。

## ○市長

大変ご示唆に富んだお話を頂き、本当にありがとうございます。子どもはずっと一貫して、誰もが自分らしく暮らせるまちを目指すのだと言って、今、市が一丸となって多様性社会を推進するというところでやっておりまして、差別のないまちに向けて鋭意進めております。

そういう中で、今大事なお話が数々あったと思うのですが、やはり差し当たって、当事者、親御さんが全ての責任を全部を背負って、負担をされるべきではないという観点は、非常に重要だと私も思います。

つまり、私を含めて、誰もが障がい、あるいは何かの不都合の当事者になり得るわけでありまして、そうだとすると社会、あるいはまち全体で、そのリスクを分散する仕組みを責任を持つということが、あるべき形だと私は信じておりますので、親御さんがお子さんの無限の成長に向けて、苦労を全部負担しなければならないというのを、なるべく軽減してみんなで助け、みんなで頑張る、だからこそ我々はあくまで障がいと捉えずに、発達に課題があるという言い方を教育長はじめされてると思ってございまして、私にとってそれはすごく嬉しいコンセプトです。課題

があるのであれば、皆でその解決のための手助けをしてあげるとのことであると思っています。

通級の様々な工夫や、あるいは色々な負担を軽減していくことで、そういう仕組みが徹底されていくと、本当に色々な人がいる中で、お互いを尊重して、みんなが暮らしやすいまちができると思います。

私はこの間のオリンピック・パラリンピックはすごく良かったと思っています、本市から車いすバスケの方と、車いすラグビーの方がメダルをそれぞれ取られて、その方々への市民栄誉賞授賞式を今度やることになっていますが、お目にかかるのをすごく楽しみにしております。そういうご自身が何か制約がある中で物事に打ち込んで、ある意味到達点に達した方々が、これから更に高みを目指す上で、どういことをまちとしてバックアップができるか、ぜひ聞いてみたいと思っています。そういう方々がどんどん市川に集まってくれば、障がいがあるということが特別でなくなり、この人たちが一生懸命、特定のことに取り組んでいる姿というのが、非常に子どもたちにとって生きるよすがや目標になり、そういうことがあちらこちらでまちに溢れるようになると、すごく皆が勇気づけられるし、もとより差別がなくなるということに繋がるとしています。親御さんやお子さんが自分は大変なんだ、自分たちが特別に何かしなきゃいけないんだというところから、なるべく解放して差し上げられるような取組を学校を中心にしていければ、本当の意味で同じ場で一緒に学べると言えるのではないのでしょうか。

なおかつICTを上手く活用して、この到達度を慣らすという発想ではなくて、それぞれの伸びしろを伸ばしてあげられるような教育ができるだろうと信じております。それが市川の教育だろうと。そういう点で教育委員会の皆様と、私ども市長部局がしっかり足並みを揃えて頑張っていければ、他に類を見ない良いまちになると信じておりますので、ご指摘の点は教育委員会の幹部の皆さんも全部聞いておられますので、ぜひ、来年度以降いかして仕事を進めたいなと思っております。ありがとうございます。

それでは山元委員にお話を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

## ○山元委員

私からは、まずもって GIGA スクール構想を市長を中心に積極的に推進していただいたことに、心より感謝申し上げます。現場に行きましたけれども、子どもたちが生き生きと活動している姿が見られましたので、大変ありがたいと思っております。

実は一つご紹介したいと思うのは、私は特別支援学校、須和田の丘にも縁がありましたが、そちらに言語聴覚士と理学療法士の方、市の病院のご勤務だった方を配置換えをしてくださっています。特別支援学校といっても、誰も専門性のある人はいないのですが、その専門職が入ったことによって、教育の質がすごくアップしました。とてもありがたいことだと思いました。

やはり学校現場は教師集団ではあるのですが、そういう色々な専門性を持った方に入っていただくことによって、その力が2倍3倍に伸びる部分があると思っております。そういう中で一つ、色々な障がいのお話も出てきましたが、私が今一番気になっているのは、見た目は皆同じように座っている教室の中に、実は明日のご飯も満足に食べられないかもしれない、そういう家庭的な格差のある子どもたちが、特に公立学校の中にはたくさんいるということです。

何事も衣食住足りての学びですので、やはりお腹がすいていたら学びに集中できない。朝食摂取率も大分下がってきていますし、もちろん子どものゲームなどにも原因がありますが、家庭環境がとても心配です。実際学力は、私も学校でやっていますけれども、学校の授業力もすごく大事ですが、やはり家庭の教育力との両輪で、家庭の教育力が無いと学力はつきません。いかに家庭の教育力を高めるかという部分も、もちろん学校の仕事ではあるのですが、やはり各家庭の抱える課題の部分まで学校が入れず、とても大きなものがあります。

そういう中で、最近ソーシャルワーカーといったものも活用しようという方向になっています。それだけでなく、例えば今も市のこども家庭支援課など、色々な課の方が学校と連携して、大変活躍してくださっていますが、やはり今の日本の子どもたちが安心して学べる場というのは、本当に確保できているのか、豊かな国のように一見見えるのですが、どこかそういう部分がすごく気になっています。

ですので、そういうものを何とかすくい上げながら、本当に学びに集中できる格差の無い教育ができる環境というのが、つくれないものかと思っています。今回のいわゆるタブレットを全員が持って、家庭にも持ち帰れるという部分も、家庭学習の一つの大きな武器になるのではないかと期待しています。

正直に申し上げて、学校の教師だけの力ではとても厳しい部分もありますので、ぜひ民間等の力を積極的に活用するなど、家庭学習の充実を、ある意味でお金をかけなくてもできる、そのような方向性は探れないかと、夢のように思っております。

最後にとても現実的な話で、実際に学校へ行って子どもたちの様子を見ましたが、道具は当たり前ですが、使えば使うほど壊れます。私は理科の教師ですが、一生懸命に実験・観察させれば、顕微鏡は必ず壊れます。だからといって使わないでしまっていたら、意味が無いので、ぜひせっかくのタブレットがいきるために、そういった部分のフォローを引き続き市長にはお願いできればと思っています。私からは以上です。

## ○市長

大変ありがとうございます。極めて重大な宿題、テーマを頂いたと思っております。

家庭の教育力や、どのようにして自分の学びのモチベーションを保っていくかということは、すごく重大なテーマで、特に格差の問題と絡めてどのようにして市民に啓蒙していくかという

ことは、継続して取り組まなければいけないと思っています。

やはり教職員の皆様の負担はすごく大きだろうと推察します。卑近なお話で恐縮ですが、コロナ禍で家にいようということで、私も子どもと向き合う時間が増えまして、今まで考えもしなかった子どもの進学のことや学びのことなど、口を出さざるを得なくなって、ずっと苦々しい思いをしてきました。

そういう中で、やはり学校の先生は本当に大変だろうと改めて思いました。それはどういうことかという、男親からすると、「お前は態度が悪い」というふうに指導するのが一番楽で簡単です。思い起こすと我々が学校に通っていた時分には、必ず怒られ役みたいな生徒がいたと思います。その生徒を叱っておけば、何となく教室が丸く収まるということがあったと思うのですが、もはや中々そういうことが成り立ちにくいのかなと。親が子どもを教育することもなくなってきているし、ひょっとすると手を焼く子どもを先生がしっかり指導するということも、社会環境的に難しくなっているのだろうと思いました。

私も駄目だろうと思いながら、子どもに対して「お前は態度が悪い」と、どうしてもその一言で済ませてしまいがちです。「お前は態度が悪い」というのはすごく簡単な、ずるいというか安易な指導方法で、その子どもの置かれてる状況に、我が子でさえそこに降りて行って話を聞いてあげて、どのようにしたらやる気をもっと引き出してあげるかというところまで辿り着くというのは、すごい大変なことなんだろうと、そのやりとりをしていて痛感しました。

まさに家庭の指導力というか教育のあり方というのが、保護者としての我々にこう問われているんだという場面で、コロナ禍で時間ができたからそういうことができるのであっても、このようなことに関わり合っていたら私は身が持たないと思いつつ、本当に先生方は大変だと思った次第です。

そこでICTなどを使ってそういう先生方の細かい指導の負担を軽減できるのであれば、それはそれで良いことだと思いますが、家庭の教育というものが、中々成り立ちにくい時代背景があるんだとすると、すごくこれは重いテーマで、市として家庭教育に対する手助けができるのだとすると、すごく意味のあることだと思います。あくまで夢と仰いましたけど、そういうところを追求していけるとすると、とてもやりがいがある素晴らしいことだと思います。

おかげさまで、子どもは非常に財政的に恵まれたまちであります。市民の皆様のおかげさまですけれども、来年度の予算編成の我々の一つの方針としても、やはり将来に向けて、投資すべきことがあるとしたら、もうそれは教育でしかないと捉えています。物を大事に扱うということは当然のことですけれども、使い過ぎて壊れてしまうというのは、ある意味で良いことですし、それを例えば直して使うことにも価値があるでしょうし、あるいは替えが利かないものを新しくあがなうというのも非常に良いことだと思います。そこはやはり惜しみ無く、お金にしてもそうですし、資源を投入して、子どもの最大限の学びの場というのが差し当たって学校



であって、そこから家庭教育が傷んでいるのだとすると、どういうふうに再構築するかということを考えていければ、すごく良いと思います。

そういう中で、何か理想的な形を見つけていって、それをきちんと我々の具体的な目標として位置付けて、追求できるような環境を作りたいと思いますので、ぜひ引き続きよろしく願いいたします。重大な宿題にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

島田委員、引き続きよろしくお願いいたします。

## ○島田委員

私もよくクラスの代表で怒られ続けたタイプなので、何となく様子はわかりますけども、そういうふうに直接教師から注意されたり、言葉をかけられるというところが、多分、学級の中での授業の良さだと思いますが、ICTと直接的な授業の学びであったり、その他の授業外のところでの直接的な経験というものを、どのようにして組み合わせていくのかということが、今後大きく影響していくと思っています。

例えばそれは各学校ごと、それとも各教員ごとに任されるものなのかどうか、それから先ほど教育長から外部からの授業の達人ということで、とても画期的で魅力的だと思いましたが、もし外部からでも市の教員の中からでもそういう達人が次々と生まれてきたときに、そのほかの達人に選ばれなかった教員は、どのような役割を果たしていくのかということも少し気になる場所でした。確かに教師はすごく仕事の負担が大きくて、ICTの支援員や近隣の大学の学生を活用するというのもすごく必要だと思いますが、昨年度もそういう話があったと思うのですけれども、専門性とは一体どういうところなのかということも改めて問われていると、つくづく自分も含めて感じています。

それから、ICTが進んで各家庭にタブレットを持ち帰ることで、先ほどお話もありましたけれども、「YouTube」ばかり見ていて結局、市で考えているような活用が実際に行われていないということも十分考えられるので、どこをもって家庭での活用ができたというふうに、例えばいくつ授業コンテンツを見たらいいのか、それともテストのようなものを受けて何点とったらクリアしたという感じになるのか、そののところもどのように測っていくのかというのが、少し気になっています。

家庭教育で既にパソコンを十分活用している家庭では、恐らく子どもにも、こういう市のコンテンツ以外にも、このようなやり方で調べたり、知ることができるというようなことを親が子どもに伝えることはできますが、そもそも、元々パソコンを持っていなかったり、スマートフォンも自分の趣味で見る程度の保護者だと、子どもに選択肢を提示するというのもできないので、そこでまたさらに教育格差が広がる可能性もあるのではないかと考えています。

その辺りについても、どこまでフォローしていけるのか、多分、既にスタートしているところ

で、差があるところも実際にはあるのかと思いますが、それも今後どうなっていくのかと心配しつつ、上手くいけば本当に苦手だったところや、先ほどの多様なお子さんの一人ひとりの課題となっているところをフォローする学びになりますし、逆に得意なところを伸ばすというきっかけにもなると思います。

先ほど広瀬委員が仰ったように、保護者や地域に結果を示すだけではなくて、プロセスを示すことがとても大事だというお話がありましたけれども、保護者と地域の方々だけではなくて、教師間でもそれを共有することによって、その子が育っていく過程を学校で継続的に見ていくことも可能になるというところは、ICTを取り入れることによって可視化されるという素晴らしい利点とも思っています。以上です。

## ○市長

大変ありがとうございます。たまたま最近読んだ読み物で、2030年の教育現場がどのようになるのかということ、若い教育に関わる人たちがコメントしているような読み物を読みました。その中に今島田委員からお話がありましたけれども、やはり教師というのは、もちろんその子どもを教え導く立場ですが、もっとファシリテーター的な要素が求められるのではないかとことをすごく若い方が指摘をしていて、なるほどと思いました。

恐らくそのICTなるものが、もっと入り込んでくるでしょうから、教育現場の様子というのは多分、10年経つともう私なんかは想像がつかないような、すごく進んだことになると思います。それこそ皆、バーチャルリアリティーで何か学んだり、色々なことをすると思いますが、そういう環境に変わっていく中で、今ご指摘の家庭環境によって、ひょっとすると家ではそういうものの恩恵を受けられない子たちに対して、どうするかということであったり、先ほど山元委員からお話がありました、実はきちんと学校で机に向かう前提ができていない子どもたちも恐らく相当数いるということに対して、まちとしてどのようにしてサポートができるかということは、実はすごく教育現場の進展の在り方以前の問題として、きちんと我々が目配せをしていかなければいけないことだと思っています。ですので、インターネットなどの情報機器にアクセスするベースになるようなインフラをどのようにして整えておくかということも、朝食の問題と同様大事になっていくと思います。確か私が読んだ記事にも困っている方々、発展途上国や国の世情が諸々悪い環境にある人たちに対して、どのようにして教育を提供するかという趣旨ことが書いてある冊子で、そこに色々な国の若い教育に関わる人たちが、10年後の教育というのはどうなっているのかということを書いているものでしたが、非常に示唆に富んでいて、なるほどと思った次第です。

我々はあくまでそうしてその教育の未来というものを考えて、とはいえ義務教育ですから、きちんとある種、教育の<sup>きんてん</sup>均霑主義という考え方をどこかに持ちながら、義務教育として子ども

たちに伝えなければいけないことはしっかり伝えていき、どこまで底上げというか、上積みを集めるかということで、よく私は教育長に公教育の限界をやりたいということを申し上げるんですけども、どこまで他市にない教育環境をこの市川でつくれるかと思ってますので、その最低の部分、スタート地点に少なくともまずはどの家庭のお子さんも立っていただくということ、早急に整えていかなければと、ご指摘を踏まえて状況の点検を今一度しなければと思った次第です。大変ありがとうございます。

それでは、平田先生よろしくお願いします。

## ○平田委員

皆さんに色々素晴らしいこと既に言われてしまいましたが、GIGA スクール構想・ICT関係で、これからどんどん新しい機械も入ってきて、将来的には恐らく1教室に一つ電子黒板が入る、そこまでいかないと中々十分なICTとは言えないと思うのですが、どんどん複雑になる機械を使いこなすために、教員一人ひとりのスキルが必要です。支援員を配置するのも、研修をやるのも結構ですけども、やはり大事なのは教員一人ひとりがICTに向かって、自分から学んでいくような意識を高めていくことと、その環境を整えることが私は大事だと思います。

今、文部科学省もICTの教育に関しては非常に力を入れているということで、「GIGA StuDX メールマガジン」というのがあります。「MEXCBT(メクビット)」という新しい仕組みなど、これからどんどん発展させていくことで、時間さえあれば教員がきちんと自分から学びます。もちろん研修があれば進んで出ていくようになると思いますが、今、教師の仕事が多忙ということがありまして、先生方にも余裕がないと中々自分から学べないし、自分から学んだスキルとか知識が無いと、子どもに上手く伝えられないと思います。ですから、中々難しいでしょうけれども、専科の増員等で、教員に勉強する余裕やその時間が何とか捻出できないかと私は思っています。

先ほどお話がありました教師の役割というのは、ファシリテーターと言いましたけれども、もっと簡単な言い方をすれば、子どもにとって教師というのは、自分が目指すべき大人のモデルでなければなりません。

それが残念ながら、以前訪問した小学校のキャリア教育で、自分のなりたい職業を調べて発表するという授業を見て、2クラスぐらいに「この中で学校の先生になりたい人」と、教育委員会の方がお尋ねしたら、0人でした。昔は2クラスいれば、20人、30人がぱっと手を挙げたものが、今は「YouTuber」というのは何人もいましたけれど、学校の教員に手を挙げた子どもがいませんでした。私の例ですが、私は小学校のときの担任の先生から、目指すべき大人というものを学びましたので、やはり子どもがなりたい大人のモデルになるような環境を作っていたらと思います。

また、特別支援の関係ですけれども、やはり特別な支援の必要のある子どもと一言で申しましても、医療的なものもあります、知的なものもあります、情緒という部分もありますけれども、さらに加えて子どもの発達障がいです。勉強については普通にできても、色々なところで多動性の傾向が出たり、先生が手をかけなければいけない子が増えているのは事実だと思います。専門ではないので何とも言えませんが、やはりお金をかけて、そういう子どももきちんと育むことができれば、きちんと社会参加ができますので、今以上に手をかけていただければと思います。

まとめませんでしたが以上です。

## ○市長

ありがとうございます。先生が仰るところの結論として、私は実は答えを持ってつもりで、それをどこまで市川市でできるかということだと思いますが、やはり、教職員の皆さんの処遇の改善ということに尽きるんだと思います。これはどういうわけか、田中角栄の時代から言われていることで、小学校の先生というのは世の中で一番高級取りであるべきだという主旨のことを田中角栄が言っています。私もそのとおりだと思いますし、今、平田先生仰ったこともそのご趣旨だと思っています。つまり、小学校の先生が子どもたちの見本であり、憧れであるということが理想的だと思います。

そうならないというのは、やはり教職員の皆さんが大変な環境の中で、プライドと想いだけで頑張っておられるという現状があるからだと思います。何とかそういう悪い状況を無くすためには、先生方の待遇を改善して、教師というのはやはり素晴らしい仕事で、なりたい仕事で、価値があるんだということにしないといけないと思いますし、大学を出た若い優秀な人たちが教員を目指すというインセンティブを作らなければ、物事は変わらないと思っています。

直近でこれから12月議会を我々控えていますけれども、人事院勧告というのがありまして、私どもはこの12月議会に、給与を減らすという条例案を提出しますが、実はその必要があるのかと本音では思っています。つまり、市川市の置かれてる財政状況というのは、このコロナ禍にあっても市民の皆様のおかげさまで、過去最高の市税収入があって、なおかつ職員の不断の努力で、本当に予算を筋肉質でスリムなものに仕上げていっているので、我々ができる限りの工夫をして色々な施策を打ちながらも、非常に財政的に恵まれてるという状況です。

そういう中であって、地方公務員だからという理由だけで、全国的に見ればコロナ禍で経済が傷んでいますから、国家公務員に合わせて給与を下げた方がよいのではないかという勧告を受け入れなければいけないまちもあるんでしょうけれども、我々が昨年引き続いて給料を下げる理由というのは、実ははっきり言って全く合理的な根拠は無いと思っています。

何を申し上げたいかということ、地方自治、あるいはその地方がそれぞれ自分たちの努力で、

市民の皆さんに喜んでいただく仕事をどんどんしていくということが、目指すべき目標だとすると、やはり自分たちの給料というのも自分たちで決めていいはずです。何とか私はそういうところに辿り着きたいと思っていますし、話が非常に遠回りになりましたが、市川の先生の皆さんは良い条件で、子どもたちを指導できる環境があるのだとしないと、やはり景色というのは変わらないと思っていますので、何とかそういうところに近づけるように、私ども不断の努力をしたいと思いますし、悪しき意味での均霑主義<sup>きんてん</sup>、周りがそうしてるから市川もそうするのだというところは、やはりどこかで脱出しなければいけないと思っています。

したがいまして、発達障がいの子もたちは、本当に発達障がいという言葉で括れないぐらい皆個性的で、それぞれ皆さん抱えてる課題というのは違いますから、そこに対して細かいアプローチをできるように、人もそうですし資源もそうですが、そこに取り組む余裕というものが我々にあるはずですから、そこに関しても、しっかり姿勢を示していくことで、市川市というのやはり特別なまちだと、市民の皆さんにご評価いただけたらと思っていますので、ぜひそこに関しても、教育委員会の皆様にご指導いただきながら、市長部局として綿密に連携して、施策を打ち出していきたいと強く思っております。ありがとうございます。

## ■議題2 家庭、学校、地域の連携について

### ○市長

それではもう一つの議題に移りたいと思います。議題の2「家庭、学校、地域の連携について」であります。この議題のバックグラウンドとしましては、子どもたちが家庭、学校、地域の様々な関わり合いの中で、コミュニケーション能力を高めて、知識や経験を得ることで、自分を大事にする気持ちや、他者を思いやる気持ちが育まれると考えています。

したがいまして、本市としましても引き続き地域全体で子どもを育てていくことが大事だと考えておりますので、家庭、学校、地域の連携を堅固にしていく所存であります。そのためにどのような具体的な取組が今後必要となるか、皆様からご意見を頂きたいと思っております。

教育長、まずお願いいたします。

### ○教育長

それでは私から初めにお話をさせていただきます。家庭、学校、地域の連携といったときに、私は家庭、学校、地域それぞれの役割があると受け止めています。

そしてそれをしっかり履行していくことが大事と思うのですけれども、例えば、家庭ということであれば、子どもの変化を学校に連絡・相談できるような学校との関係、簡単に言うと担任

の先生と保護者の間の信頼関係の構築というものがやはり必要になるのではないのでしょうか。

次に、学校におきましては、子どもたちが気軽に相談できるようなライフカウンセラーあるいはスクールカウンセラー等の人的な配置を整える。子どもたちが悩んだりしたときの心の居場所づくりということで施設設備を配備した教育相談体制を、学校の中でしっかり構築し、整えていくということが大事だと思っています。

そして地域にあっては、地域の民生児童委員の方、あるいは自治会の会長、そしてコミュニティ・スクール等における学校運営協議会の委員の方が色々な情報を持っていますので、その情報を学校がもらうことを通して、適時・適切な対応に活かしていくということができると思っています。

家庭、学校、地域の連携に加え、私は市長部局のこども政策部あるいは福祉部、そういった部署とも連携をしていくことが、より適切な指導・支援というものに繋がっていくと思っています。

それから、連携にあっては、私は情報を繋ぐことと、支援を繋ぐことがとても大事だと思っています。例えば、支援を要する子どもの場合、市川市で推奨しているスマイルプランという個別の教育支援計画がありますので、そのスマイルプランを医療機関であったり、福祉機関であったり、相談機関が共有することで、その中で情報共有も図ることができると思います。情報を共有することによって、より適切な指導にもなってくるでしょうし、幼小中高の切れ目ない支援も獲得できるのではないかとと思っています。

もう一つは地域の行事です。子どもたちを企画の一部に参画させたり、あるいは吹奏楽部や合唱の子どもたちの出番を作ると、子どもたちがどんどん地域に出て行って、地域と子どもたちの関係も醸成されていくと思っております。私からは以上です。

## ○市長

ありがとうございます。一層、教育委員会と市長部局の子ども・福祉部門が連携を深めて、コロナ禍も出口が見えてきておりますので行事を増やして、発表の場を増やして交流を進めていきたいと強く思っています。

やはり元に戻って、学校というのは差し当たって、子どもたちと先生のものだと私は思うのですが、同時にOB・OG、それから地域の一つの象徴という存在であって欲しいと強く思っております。やはり地域の方々が学校に戻ってくる、あるいは入ってくるような機会を、コロナ禍で色々なことができませんでしたが、コロナ禍が収まった暁には復活させて更に強く進めていくことで、地域の力や知恵を子どもたちに注ぎ込むという意味でも、色々な良い効果があると思いますので、ぜひ施設の開放という点でも従前から教育長と相談させていただいて

ますが、色々な仕組み、地域の方が学校に入っただけのようなことを、引き続き考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

広瀬委員、よろしくお願いいたします。

## ○広瀬委員

先ほど市長のお話からもあったように、地域の方が入るところで、私は教育委員になる前に市川市教育振興審議会の委員をさせていただいて、審議会の委員の中には、コミュニティ・スクールに地域の立場からご参加されてる方もいらしたんですけれども、地域としては学校にすごく関わりたいということ、すごく熱心に仰っていたのをよく覚えております。

ですので、そういったお力を借りて、繋がり合いながら、子どもを地域で育てていくということができると、すごく良いと思っています。その際に、やはり地域の方が入りたいと思っていて、学校側も先ほど多忙という話題もありましたので、そういったところを抱えている中で、上手く落としどころがあるといいと思います。やはり教員一個人では中々難しいところがあると考えると、校長先生はじめ管理職の先生方のマネジメントは、こういった連携では大事になるのかと思っております。

そういったマネジメント力を発揮していただきながら、子どもを中心として、子どもが健やかに市川市で育つように連携を強めて欲しいと思っております。

もう一つ、先ほどの話題とも重複しますが、先ほどICTを使って家庭等にプロセスを可視化するという話をしましたが、そういった情報発信の仕方も、工夫をどんどん現場サイドで進めていただけるとすごくありがたいと思います。そうすると、繋がってみたい、繋がってみたいという思いが、より市民の中に湧き出て、それが一つひとつ実を結んでいくと、大きな力になると思いました。

現実的なところで一つ、私は市の公立幼稚園と研究などで一緒させていただいているのですが、その中で幼稚園、保育所、子ども園と、それぞれ今は同じところで管轄されているとは思いますが、元々の流れが異なることもあって、先日遠隔の会議をさせていただくというときに、具体的で申し訳ないのですが、パソコンの中の遠隔のソフトが市の幼稚園の方には入っておらず、役所にお借りになっているということ、伺いました。保育園ではそういったことはないという話題でしたので、施設種別が違うだけで色々ご苦労されていると耳にしましたので、ぜひ喫緊で、もし改良できればと思ひまして発言させていただきました。以上となります。

## ○市長

ありがとうございます。ソフトの件は至急調べて手当をしたいと思っております。大事なお話だと思っておりますので、ありがとうございます。

最初のテーマに戻りますが、やはりICTを活用して、校長先生を筆頭に先生方に、今までは非常にお手を煩わせてしまっていたようなことを、解放することができると思います。そういう仕組みを作っていくことで、学校がより良い地域に開かれたものに必ずなると思います。しかも、学校というのはやはり地域のシンボルだと申し上げましたが、学校ごとに色々な個性や特色、OB・OGの思いが集まっていて当然だと思いますので、来年度から徐々に老朽化した公立小中学校を直していく計画を我々はしていますが、なるべく早く、かつ地域の市民の皆様にご理解を頂いた上で、個性や特色のある学校づくりに努めたいと思っております、そのときやはりICTというのは大きな武器になるでしょうし、まさにその学校再構築、ハードの部分を進めていくときに、やはり市民の皆さんだったりOB・OGを置いてけぼりにしてしまうと、非常に色々な問題が出てくると思っておりますので、単に我々がよくやる地域住民への説明会を何回やったからどうだ、というところにとどまらずに、やはり学校づくりに市民に参加していただくということがすごく大事だろうと思っております。

なぜ私が学校がOB・OGのものだと申し上げているかというと、私の母校が校舎の建て替えをしています。学校が綺麗になって新しくなって良くなることは後輩諸君のことを考えても、すごく喜ばしいことですが、OB・OGのことを考えて、壊す前に1回でも呼んでもらって、教室を開放して、同窓会でもしたらどうかと、一言言ってくれるとすごく嬉しいです。そういうことが無いままに、学校が綺麗になって移ったりしますと、すごく寂しいです。やはりOB・OGを学校運営に巻き込んで、さらに良くしていくという視点が、公立学校の場合、より求められると思っております。そういう意味で、先ほどからご指摘いただいているプロセス論というのは、大事だと思っております。

ぜひそういう視点で、良い学校づくりを教育委員会と一緒に、主に我々ができることは予算的な面であったり、防災や防犯などの機能で、できるだけ最新の知見を学校に、どうすれば先生方のご理解を頂いた上で盛り込めるかなど、そういう点に限られると思っておりますが、なるべく地域の皆様に喜んでいただける学校づくりをご一緒したいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

山元委員、引き続きお願いいたします。

## ○山元委員

コミュニティ・スクールの校長をさせていただいた経験からお伝えしますと、学校運営協議会を開催して地域の色々な方に来ていただくと、OB・OGの方は学校への熱い思いもございます。それは代えがたい財産でもありますので、それをいかに活かしていくかというのは、やはり学校経営者としてとても重要な視点だと思います。実際、市内で夕方に、見守り隊やたくさん色々な方が出て、子どもたちのために活動してくださっている、それは市川の財産だといつも



思っています。

そういう中で、特に私は二つの視点で、地域の見守り力を活用できないかなと思います。一つは、私が中学校の教員ということもあると思うのですが、子どもたちのボランティア意識のようなものを育てられないかということです。助け合うボランティアというのは、これからとても重要だと思いますが、日本人はこういうことに慣れてないせいか、すごく下手だと思います。手伝うという経験を、地域の中でぜひできないかと思っています。

それからもう一つは、先ほども出ましたが、家庭間の格差の問題があり、孤立している家庭を学校だけで判断できない。色々な方の視点というのがすごく大事なので、そういう面でも地域の方々をぜひ活用できないかと思っています。以上でございます。

## ○市長

ありがとうございます。ご指摘は私もごもっともだと思ひまして、ボランティア精神や他者を配慮する、おもんぱかるということに関して申し上げますと、やはりかつて私が育った70年代とか、そういう時代にはよりそういうものが残っていた、良い環境がまだあったと率直に思います。

時代が変わって自分のことで精一杯になり、コミュニティの力や地域の力が弱ってきている中で、どうやって今一度市が旗を振って、ある意味での地域再生であったり、コミュニティ力を強めるかということに関して言うと、やはりボランティアもそうでしょうし、子どもたちが楽しくて、人様の役に立っているという実感であったり、今皆さんがよく好んで使われる自己肯定感というもの、人から必要とされ感謝されているということ、色々な経験を通じて若いときから感じてもらうという取組を、学校でやっていただけると、あるいは地域がそれをサポートして学校に入って行って、教育内容をより充実させるということができると、すごく素晴らしいことだと思います。

他方で、骨の折れる作業になりますし、地域の皆様に色々な負担・協力をお願いしなければいけないことだと思いますので、どのようにしてそこを充実させていくかということに関してであり、市の姿勢や覚悟も非常に求められると思いますので、例えば子どもに喜んでいただけ、先生方の負担にもならないことがあるのだとすると、今、市では、一生懸命にスポーツを頑張った職員を採用しようとしています。何かに打ち込んだ方の一芸に注目をして採用し、教育委員会と連携して部活の指導に当たってもらうなど、そういうことができると先生方も喜んで、一番大事なことは子どもたちが一番嬉しいでしょうし、保護者の皆さんも良かったと思っただけなのでしょう。そうして強い市としてきちんと何らかの覚悟を示して、具体的な施策を打っていかないと、進まないことだと思います。

コミュニティや地域というものがどうあるべきかという明確な思想やビジョンのようなもの

が無いと、とても踏み込める話ではないと思いますので、きちんとした目的を持ち、そこに向かって市が進んでいくという覚悟とともに、今のボランティアの話や格差の話も絡めていければと思っています。やはり精神的にも経済的にも余裕のない方々というのは、目先のことでいっぱいになってしまっていて、何かしたいことがあってもできないということに繋がると思いますので、そういうところに早いうちから参加をしてもらって、みんなで指導して、将来、社会のために何らかの活躍をしてもらえるような大人になってもらうために、みんなで見守るという活動にも繋がるのではないかと思いますので、やはり具体的に我々が事業として、例えば自治会なんかにも声をかけて連携して、まち全体で取り組む仕組みをつくれれば、何となく目標が見えてくるでしょうし、その活動を通じて、まちのあるべき姿というのを皆で考えるということができないのではないのでしょうか。これもすごく大事な宿題として、どうするかということを実体的に考えてまいりたいと思います。大変ありがとうございます。

では島田委員お願いいたします。

## ○島田委員

もう教育長からも、山元委員からも出ているお話ですが、やはり困っている子どもが居られる場所や、衣食住にも困っているご家庭のお子さんがいらっしゃるという話もありましたが、そういうお子さんが救われるような方法を確保して欲しいと思います。

それから、市川市ではそのようなことは無いと思いますが、他の県ですと外国籍のお子さんたちが昼間学校に行かずに外国人の子どもたちだけで集まって、ふらふらしているという話を中学校・小学校の先生からも聞くことがあるので、やはり居場所がないと、中々子どもたちが健全に育っていくことが難しいかと思います。

その時にやはり、家庭、学校、地域の連携がすごく重要になってくると思うのと、最近の酷い事件や、自ら命を絶ってしまうようなお子さんの報道を見ていると、最後にSOSを出すのがSNS、ネットの中で相談する場面があって終わってしまうという、不幸な結末を目にすることがあります。そういうことを考えると、地域との連携をする中で、もう少し何かハードルが低いようなところで、子どもたちの心の拠り所というか、本当に困っていることを、学校に行っていれば先生にも相談できるし、先生も察してくれると思うのですけれど、学校に行っていなくても、家庭教育とか自分で勉強してきている子どもだと、どこに相談すれば助けてもらえるのかというのを知っていると思いますが、それを知らずに、ある程度の年齢まで育ってしまうと、もしかすると小中学校以上のお子さんや、20歳過ぎの人でもそうだと思いますが、本当に困ったときにとんでもないことになってしまうということに繋がっていると思いますので、早い段階で、どういうところに助けを求めたらいいのかということがわかるような仕組みにも少し取り組んでいただければと思います。

## ○市長

ありがとうございます。愚痴を聞く、相談を聞くというのがすごく大事だというお話を、かつて企業相手に社員のメンタルヘルスを面倒見るとい事業をやっている社長さんから聞いたことがあります。この方は自衛隊のご出身で、自衛隊というのは自殺が多いということが言われていて、その方も部下の方が、不幸にも自殺をされたという辛い経験を経て、そういう事業を起業したらしいのですが、大事なことは愚痴を聞くことだと一言で仰っていました。

やはり色々な意味で物理的にも精神的にも孤立して行って、思い詰めてしまうということが一つの問題だとすると、仰るところの子どもの居場所や、あるいは見方を変えれば、何か打ち込めるものというものをまちが用意して、そこに情熱を注ぐなり、あるいは辛い気持ちをそこに向けるなりということができるようでしょうし、困っていない子どもたちにしても、何かに打ち込んでとにかくやってみるという経験が非常に大事なんだろうし、それを見つけるのもそもそも大変だという世の中だと思いますので、ハードルが高くない居場所というのは、それがサイバ一空間なのか実際の遊び場なのかは別として、色々なものが考えられると思います。ありがとうございます。

平田先生に締めていただきたいと思います。

## ○平田委員

締めるほどの意見は無いのですが、やはり現在は半世紀前と違いまして、生活様式も価値観も違うものですから、地域社会が前のように結びつくということは不可能です。

しかしながら、私はこういう社会であっても、学校というのが唯一残された核になる場所だと思います。つまり、全員が全員、昔からお住まいの方ではないでしょうけれども、やはり自分の母校に自分の息子を通わせている親もいますし、そういうものを上手くピックアップして、子どものためになるということで、色々なイベント等を考えていけば、新しく入ってきた方でも自分の息子が喜ぶきっかけになるのであれば、一肌脱ごうじゃないかという方も出てくるはずですので、ぜひ校長先生はPTAだけでなくそういう核になる方を見つけて上手く話してほしいです。

そして、やはり私は自然体験、生活体験それから年中行事というのは、その地域に密着したものなので、そういうものを通じて子どもたちに、今いる場所の「ふるさと感」というものを育てていくような、学校を中心とした地域の結び付きができればと考えています。難しいところなので、中々意見を申し上げにくいのですが、以上です。

## ○市長

ありがとうございます。何とかそこに辿り着けるように、頑張らなければいけないと思いました。たまたま昨日、文化の日で市民まつりを行っていて、毎年、行徳神輿の皆さんに神輿を担いでいただくのですが、私が今のお役目を頂いて驚いたことの一つは、行徳神輿を担ぐということが、すごくオープンな活動になっています。何が言いたいかというと、神輿を担ぐというのはやったことがない人からすると、例えば行徳特有の白装束を着ていかなければいけないのではないかと、仲間に入るのに重大な参入障壁があるのではないかと考えがちですが、彼らの活動というのはすごくオープンで、来た人に親切にこういう曰く・因縁、歴史があつてと、喜んで説明して下さり、誰でもやって良いという活動です。

学校の存在というのも、実は多くの人にとってオープンであるのにもかかわらず、学校に行く、あるいは駆け込むなど、普段と関係のない時間帯に学校に行くということは、意外と市民にとってハードルが高いこととして思われているのではないかと、間違っているかもしれませんが思っていて、ですから実は学校というのは、今、平田先生が仰ったとおり、差し当たって子どもたちが勉強する場所なのかもしれないけども、もっとそれよりも広い意味があつて、地域に溶け込んでいるんだということを、やはり我々が打ち出していかなければいけないのではないかと思いますし、先ほど申し上げたように、学校を順番を追って義務教育学校にするなど、色々なプロジェクトがこれからある中で、やはりそういうことを最大限考えながら、ハードとしての学校を再構築していくということが非常に重要であると思った次第です。ぜひそういう視点で仕事をしていくことを、心がけていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

時間がもしかしたら大幅に超過しているかもしれませんが、他に特段お有りでしたら、ぜひご意見を承りたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

————— 異議なし —————

## ○市長

ありがとうございました。それでは議題が全て終了しましたので、頂いたご意見を踏まえて教育長とご相談の上、しっかり来年度の仕事に活かしてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

これにて令和3年度第1回目の、総合教育会議を閉会したいと思います。大変ありがとうございました。

————— 閉会 —————